



第25回 民間技術交流会を開催します — 港湾・海岸整備における最新技術を紹介 —

2月21日に第25回 民間技術交流会を開催します。本交流会では、民間事業者等により開発された有用な技術を、管内の港湾・海岸整備において積極的に活用していくため、その技術を港湾整備関係者にプレゼンテーションして頂く場として開催しています。

1. 日 時 令和5年2月21日(火) 13時30分～16時30分
2. 場 所 イオンコンパス名古屋駅前桜通口会議室 Room D+E+F
〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-25-3 大橋ビルディング4階
3. 発表技術
 - ①オートゲート【旭イノベックス株式会社】
 - ②ハイブリッドエポキシ樹脂【日本国土開発株式会社】
 - ③防波堤港内側補強工法とブルーカーボン【日建工学株式会社】
 - ④水中バックホウ スーパービッグクラブ【あおみ建設株式会社】
 - ⑤テーパー杭による基礎杭工法【りんかい日産建設株式会社】※各発表技術の概要は別紙参照
4. 募集要項

募集対象 : 建設関係者
募集人数 : 80名程度
参加費用 : 無料
応募締切 : 令和5年2月3日(金) 17時
応募方法 : ◆下記の必要事項を記載したメールを申込先まで送信して下さい(メールの表題に「民間技術交流会」と記載願います)

 - ①お名前・ご所属・役職
 - ②普段連絡が取れるお電話番号
 - ③CPDS 受講証明書 要否

◆メール1通につき応募者1名とします
(応募者が複数である場合は非選定とします)

◆申込先 (事務局)特定非営利活動法人 伊勢湾フォーラム
E-mail : contact@isewanforum.org

選定方法 : 応募数が募集人員を上回る場合は、応募締切後、抽選のうえ決定します

当選通知 : 令和5年2月6日(月)に、当選者のみメールで返信します



5. その他 本交流会は、CPDS(継続学習制度)認定講習会です(3ユニット付与)

6. 問合せ先 中部地方整備局 名古屋港湾空港技術調査事務所
技術開発課 木全(きまた)、京田(きょうだ)
電話 052-612-9984

【会場周辺案内図】



出展：イオンコンパス会議室 HP



(別紙) 第 25 回 民間技術交流会 発表技術一覧(発表順)

	発表技術	発表者	技術の概要
1	オートゲート	旭イノベックス株式会社	<p>門柱の無い樋門であり、内外水位差により無動力で自動的に扉体が開閉する。</p> <p>扉体上部にウエイトを設けバランスを取り非常に軽い力で開閉する。</p> <p>水位が無い状態では約8°、常に開いており少量の水位で流れてくるペットボトルやゴミを流れやすくしている。</p> <p>非常用開閉装置を設ける事で、不完全閉塞等の非常時にも強制的に開閉操作が可能である。</p>
2	ハイブリッドエポキシ樹脂	日本国土開発株式会社	<p>近年、海水の飛沫、融雪剤散布による鉄筋コンクリート構造物の劣化(塩害)が顕著化している。また、補修した場合にも鉄筋表面等にわずかに残った塩化物による早期の再劣化も課題となっている。そこで、塩化物イオンを吸着するとともに、硝酸イオンを放出するエポキシ樹脂を開発した。本材料は鉄筋コンクリート構造物の「維持管理」で用いる新材料である。</p> <p>「ハイブリッドエポキシ樹脂」は、従来のエポキシ樹脂の補修性能に加えて塩分吸着効果と鉄筋腐食抑制効果を有する。また、従来のエポキシ樹脂と同様の施工が可能で、ひび割れ注入材や断面修復工法のプライマー及び鉄筋防錆材などに適用できる。これにより、塩害を受けた鉄筋コンクリート構造物の LCC の更なる低減が期待できる。</p>
3	防波堤港内側補強工法とブルーカーボン	日建工学会株式会社	<p>従来、防波堤港内側補強工法として採用されている捨石嵩上げ工は、コストや施工性が課題であった。一方、サブプレオフレーム(SPF)は、フレーム内の拘束された中詰石と下層の石が強固にかみ合うことにより滑動抵抗力を発揮し、コンパクトで安価な補強体を構築する。</p> <p>また、微細・小型藻類の生長促進効果を有する環境活性コンクリート(EAC)や柱状の多機能型藻場ブロックと組み合わせることにより、消波根固ブロックにおけるブルーカーボン生態系(海藻藻場)の創出が期待できる。</p>



	発表技術	発表者	技術の概要
4	水中バックホウ スーパービッグクラブ	あおみ建設 株式会社	水中作業において基礎捨石均しや構造物取壊し工を機械施工するもので、従来は人力(=潜水士)による施工で対応していた。本技術の活用により、施工能力の向上による工期短縮、安全性の向上が期待できる。
5	テーパ杭による基礎杭工 法	りんかい 日産建設 株式会社	港湾施設における係留施設などの基礎構造物に用いられる開端の鋼管杭を、先端部がテーパ型となる杭「テーパ杭」とすることにより、コスト削減や環境負荷低減とする技術です。